

難民食料支援学び語り合う会⑧ ご案内

主催：NPO 名古屋難民支援室、アジア・ボランティア・ネットワーク・東海、地域と協同の研究センター
協力：生活協同組合コープあいち ※予定は変更になる場合があります。

11月4日（土） 10時～15時（予定）

（第一部、第二部のみの参加も受け付けます。）



テーマ：日本（東海地域）にくらす難民の方々とともに学び語り合う

第6回、第7回学び語り合う会で、東海地域にくらしている難民の方々の現状・想いをお聞きしました。ご自身の人生に対する思い、ご家族への思いに触れ、参加者皆が様々なことを考える機会となりました。今回も引き続き、一緒に学び語り合います。

第一部 10:00-12:00 学び

NPO名古屋難民支援室から
難民の方々から
支援者の方々から

お昼の部 12:00-13:30 試食・交流

ハラルフードを温めて、皆でいただきますよう。
試食品のカンパをお願いします。



参加申込フォーム

第二部 13:30-15:00 学び語り合う・交流

さまざまな立場の方と一緒に、課題解決に向けての語り合いをしましょう
私たちにできることを考えましょう。



会場 コープあいち生協生活文化会館4階会議室（名古屋市千種区稲舟通1-39）

〃 豊橋生協会館 会議室（豊橋市牟呂町松崎15）

オンライン

※参加費 無料 食料支援の食料品・現金の寄付を募ります。

定員 50名

定員 35名

定員 なし

※お申込み・お問い合わせ先（地域と協同の研究センター 平日10時～17時 伊藤まで）

電話 052-781-8280 FAX 052-781-8315

e-mail AEL03416@nifty.com <http://www.tiiki-kyodo.net/>

右上のQRコードからもお申し込みいただけます。お申し込みの際 以下のことをお伝えください。

名前・所属（あれば）・連絡先 参加時間帯

参加方法： 会場参加（名古屋・豊橋） オンライン参加（オンライン参加の方はメールアドレス）

食料支援物資の仕分け発送は、12月3日（日）10時から 生協生活文化会館で開催。

難民食料支援学び語り合う会⑦ 6月17日(土)の報告

難民の方々(アフガニスタン・ウガンダ・カメルーンなどのご出身)が語られた内容(研究センターNEWS228号に掲載)を紹介します。切実なお声を受け止め、私たちは話し合いを続けます。

11月4日、ぜひ一緒に学び語り合しましょう。

<難民食料支援学び語り合う会⑦で出された難民の方々の実情と想い>

- ・私はアフガニスタンから来ました。今まで築いてきたものすべてを置いてくることになり、日本でゼロからスタートするしかないという状況があります。娘がいて、父親としてとても心配しています。娘が将来、アフガニスタンに戻ったとしても希望を抱いて生活できる状況にないからです。日本に来て平和を実感していて、自由に意見を言えるし、そういう生活を今体感しています。
- ・名古屋大学で「貧困と政治社会」という分野で修士課程を修了しています。アフガニスタン政府のもとで働いて生活することができていました。日本に来ることになり、自分の人生の中での重要なもの=キャリアを失うことになりました。
- ・アフリカのウガンダから来ました。自分の国では教員をしていて地理を教えていました。国を離れざるを得なくなったのは、政治的な圧力があったからです。
- ・カメルーンから去年の9月、日本に来ました。私が逃れざるを得なくなった理由や、日本に来た理由は自分にとってもミステリーです。まさか自分が難民と呼ばれる人のひとりになるとは、想像もしていませんでした。私はまだ若くて、自分の国ではエンジニアとして学び、働いていましたが、紛争があり逃れてくるしかない状況におかれました。難民は、一人ひとりがトラウマを抱えて逃げざるを得ない状況でくらしています。世界が平和になることを願っているし、戦争がなくなることを願っています。
- ・アフリカ南部から日本に来て、7年経ちます。まだ難民申請中です。大変な生活が続いています。自分の人生のやりたいこととしては、もう一度学びたいと思っています。自分の娘に7年間も会えていません。私が持っている唯一の人生のゴールはもう一度娘と暮らすことです。
- ・アフガニスタン出身です。政権が変わったのでパキスタンに逃れた後、日本に来ました。帰れない理由はたくさんあって、ひとつは旧政府の高官だったことです。今抱えている課題としては、どうやって日本の社会に定住していくかということです。日本語を学ぶこと、いかに自分の精神的な健康を保つかということが課題です。文化の違いがあり、家族や友人を失ったトラウマを抱えています。難民はみんなそれぞれトラウマを抱えています。精神面の健康を保つことは、ほとんどの難民が向き合わなければいけない課題です。自分に自信を取り戻し、尊厳ある生活を送ることができるかということも、大切な課題です。
- ・有名な格言があります。「私たちは皆、同じボートに乗っている」という言葉です。私たちは皆、同じ嵐の中にいるとも言えると思います。アフガニスタン出身で、自国で築いてきたすべてのものを失って、ゼロからスタートするしかない状況です。私も私の妻も、アフガニスタンで医者でした。自分達の病院を持つ計画がありましたが、すべて実現することができなくなりました。日本では、まずはふたりの子ども達のこと集中して生活するような状況です。しっかりと教育が受けられて、安心して生活していけることが大事です。しっかりと日本語を勉強したいと思います。そして、日本での医師国家試験にチャレンジしたいと思います。日本で医師としてキャリアを生かして働きたいと願っています。
- ・みんなもともと難民ではありません。そして難民になりたいと思った人もいません。強制的に難民にならざるを得ない状況に置かれたのです。